

児童文学の冒険

# 飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行



最新号

第53号  
(2018年春)

## 特集『好き』の気持ち

like, love, favorite……。

14名が書き下ろす、「好き」の気持ちの物語。

表紙 ● 阿部海太  
詩 ● 最果タビ  
童話 ● 山崎ナオコーラ / 大久保雨咲  
短編 ● 山本悦子 / 濱野京子 /  
行成薫 / ひこ・田中  
短歌 ● 雪舟えま / 服部真里子 × 木下龍也  
エッセイ ● 黒田龍之助 /  
朝比奈あすか / 杉江松恋

定価：本体1,000円＋税 ISBN 978-4-8138-0045-3 光村図書出版株式会社

英語教育 相談室  
| No. 03 |

2018年6月9日発行

発行人 ● 小泉 茂  
発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9  
電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp  
E-mail ● koho@mitsumura-tosho.co.jp  
デザイン ● Better Days (大久保裕文+深山貴世)  
イラスト ● 小林マキ 編集協力 ● 株式会社エスクリプト  
印刷所 ● 株式会社 加藤文明社

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

広報誌の配送停止のご希望は、光村図書出版までご連絡ください。

光村図書

特集  
どうやって授業をつくる？  
宮城県七ヶ浜町立亦楽小学校・東京都目黒区立不動小学校



旅のことば  
鴻上尚史

こう使う！  
COLUMBUS 21  
埼玉県熊谷市立  
熊谷東中学校

子どものための  
BOOK GUIDE  
Yo! Yes?

ESSAY  
KOKAMI  
Shoji  
No.03

# 旅 の こ と ば



鴻上尚史  
こうかみ・しょうじ

作家・演出家。1958年、愛媛県生まれ。早稲田大学法学部卒業。1981年、劇団「第三舞台」を結成。「スナフキンの手紙」(94)で岸田國士戯曲賞を受賞。現在は、「KOKAMI@network」、若手俳優を集めて旗揚げした「虚構の劇団」での作・演出を中心に活動。海外公演としては、2007年「TRANCE」、2011年「Halcyon Days」。いずれもイギリス人キャストへの演出を行っている。桐朋学園芸術短期大学特別招聘教授。

## Diarrheaについて

イギリスの演劇学校に留学している時、それはそれは英語に苦しめられた。その辺りの喜劇的悲劇は『ロンドン・デイズ』(小学館文庫)として出ていると、冒頭、いきなり宣伝になってもうしわけないのだが、本当に英語には苦しめられた。

授業の内容を理解するために、僕はクラスメイトのレイチェルに個人的な家庭教師を頼んだ。一週間に一回、授業で分からなかった内容を確認する時間を作ったのだ。

演技のレッスンの時に、「ダイアリア」という単語を男子生徒が口にした。僕はそれを音だけで覚えていたので、レイチェルの個人授業の時に質問した。レイチェルは身振り手振りで僕に説明した。どうやら「お腹を壊すこと」だと分かった。自分で何度も英語辞書を引いたのだが、「ダイアリア」にはたどり着けなかったのだ。

個人授業を続けながら、二人は地下鉄に乗っていた。僕は「スペルは？」と聞いた。

その瞬間、レイチェルは「オー！ノー！」と叫んで頭を抱えた。そして、目の前に座っているビジネスマンに「ダイアリアってどう書くんでしょう？」といきなり質問した。もちろん、見も知らぬ他人である。聞かれたインテリの匂いがするスーツ姿の中年ビジネスマンは、小さく笑いながら「diarrhea」と説明した。

こんなスペル、音を聞いても自分では絶対にたどり着かないと唸った。同時に、イギリスの名門演劇学校に入学するレイチェルでさえ、スペルには自信がないんだ、そういうものなんだと唸った。日本人が「憂鬱」とか「林檎」なんて字は読めるけれど書けないことと対応するんじゃないかと思った。だとしたら、平均的なイギリス人が書けないスペルを習得することに時間をかけるより、もっと有効な英語の勉強があるだろうと考え直した。

ちなみに、「diarrhea」は「下痢」だ。



Mitsumura  
English Teachers' Resources  
COLUMBUS 21

## 英語教育相談室

2018  
| No.03 | C O N T E N T S

旅のことば  
Diarrheaについて  
鴻上尚史

### 特集

- 02 どうやって授業をつくる？  
学級担任が授業をつくる意義って？  
東仁美
- 事例レポート  
宮城県七ヶ浜町立亦楽小学校  
東京都目黒区立不動小学校

### 連載

- 14 こう使う！  
COLUMBUS 21 [第3回]  
埼玉県熊谷市立熊谷東中学校  
内田 陽
- 18 小中をつなぐポイント [第3回]  
何を学ぶ(What to learn)でつなぐ②  
太田 洋
- 20 今日から使える！  
Classroom English [第2回]  
授業の始まりに使える表現  
菅井幸子
- 22 小学校英語 お悩み相談室 [第3回]  
歌やチャンツで  
子どものノリが悪いのですが……。  
英語の評価をする自信がありません。  
小泉 仁
- 24 子どものための  
BOOK GUIDE [第3回]  
Yo! Yes?  
金原瑞人

# どうやって 授業をつくる？

いよいよ小学校外国語活動・外国語科の移行期間が始まりました。授業のつくり方に試行錯誤されている方も多いのではないのでしょうか。本特集では、担任の先生が中心になってつくる英語の授業について取り上げます。長年にわたり小学校英語活動をリードしてきた、東仁美先生へのインタビューと、実際の授業事例をもとに、担任の先生だからこそできることは何なのか考えていきます。

撮影：鈴木俊介



## 学級担任が授業をつくる意義って？

小学校での外国語教科化に、学級担任は、学校は、どう対応したらよいのか。東仁美先生に、さまざまな疑問や悩みへのアドバイスをいただきました。

回答者：東仁美  
ひがし・ひとみ 聖学院大学欧米文化学科教授

児童英語教室を主宰するかたわら、長年母親ボランティアとして小学校英語活動の指導に関わる。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。著書に、『小学校英語 はじめる教科書』(共著/mpi松香フォニックス)など。

### Q1 学級担任には どの程度の英語力が 必要になるのでしょうか？

#### A1 大切なのは、完璧な英語力ではなく 「児童の発話を促すための英語力」です。

東京学芸大学がまとめた小学校教員養成課程の外国語(英語)のコア・カリキュラム(文部科学省委託事業)によると、CEFR B1(英検2級程度)の英語力とされていますが、必要なのは

資格ではなく、「児童の発話を促すことができる英語力」であり、指導にふさわしいコミュニケーション能力です。「聞く・読む・話す・書く」の4技能をバランスよくというよりは、特に話す力が必要になるので、移行期間である2年の間に、子どもやALTとの英語でのやりとりに慣れていくことが大切だと思います。

これから教員をみざす学生は、教員養成課程で、新学習指導要領や新教材から外国語科で扱う表現や語句を確認し、そこから逆算すること



で、「Small Talk」(まとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること)の英語、ALTとの打ち合わせの英語、板書の英語など、求められる英語力を「見える化」して学んでいます。

現職の先生方にも、まずは文部科学省が出している移行期間中の年間指導計画案を読み込んでいただき、枠組みと求められていることを理解してから準備を始めていくことをお勧めします。

### Q2 「児童の発話を促す」 テクニックはどうやって 学ぶとよいのでしょうか？

#### A2 文部科学省が現場をサポートする 素材を多数提供していますが、 大切なのは先生が興味をもって 取り組んでいる姿です。

今回の学習指導要領改訂に際し、文部科学省は学校現場をサポートするさまざまな情報提供を行っています。「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」だけでなく、YouTubeの文部科学省チャンネル(mextchannel)にも「クラスルーム・イングリッシュ」「スピーキング・トレーニング」「Small Talk」など、研修に役立つ素材が多数掲載されています。

自治体、教育委員会、各学校での教員研修に参加するのも有意義でしょう。



# 事例レポート

担任の先生が中心になって、英語の授業づくりを進めている学校取材しました。どのような研修・準備を行っているのか、実際の授業風景とともにご紹介します。



## 事例1 宮城県七ヶ浜町立 亦楽小学校

授業を常にオープンにし、町の教育者全員で高め合う

### 担任とALTが あうんの呼吸で進める45分

宮城県七ヶ浜町立亦楽小学校の5年生の教室に入ると、コの字型に並べられた席についた子どもたちが元気な挨拶で迎えてくれた。教壇に立っていたのは、ALTのEduardo Urbina先生。担任の<sup>とやまゆう</sup>外山先生の姿を探すと、教室の端に立ち、子どもたちと一緒に授業を受けているかのように見える。この日学ぶのは、曜日と教科の

言い方。エディ先生がピクチャーカードをうまく使いながら、明るくテンポよく英語での言い方を確認していく。

10分が経過したころ、「よし、ここでミッシングゲームに入ろうか」と外山先生がエディ先生に声をかけた。続けて、「ミッシングゲーム覚えている？」と子どもたちに尋ねると、「何がなくなったか探すんだよね？」という声が上がった。「そうそう」と外山先生が答えると、子どもたち



授業を進行するALTのエディ先生(中央)と、クラス全体の様子を見守る担任の外山先生(右)。

ただ、テクニックのみを身につけても、なかなか授業の中で生かすことはできません。英語の勉強をしてALTと仲よくなろう、東京オリンピックの語学ボランティアをやってみよう、次の夏休みは海外で英語を使ってみよう……など、英語を通して広がる世界を楽しめる前向きな思いをもって学べば、授業でも生きる力が身につくはず。先生方一人一人が、新しいことに対するチャレンジ精神をもって取り組んでいく姿こそが、「子どもたちの発話を促す」英語力につながるのです。

### Q3 学級担任が 英語の授業を行う意義は、 どんなところにありますか？

### A3 学びやすい環境づくり、他教科との連携、 評価をするところで生かされます。

『小学校学習指導要領解説 外国語編』では、指導体制について、「学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと」とされています。

しかし、現在の「外国語活動」では、学級担任が、ネイティブ・スピーカー(ALT)や英語が堪能な地域人材に頼りすぎている例が散見されます。確かに、標準的な英語の音声に接し、やりとりする機会を確保するためには、サポートを得ることは必要です。しかし、児童理解や他教科との連携、さらに教科化により評価が必要になることを考えると、任せるだけでは授業は

成り立ちません。コミュニケーション活動がうまくいく秘訣は、子どもたちが学びやすい環境をつくること、つまり「学級運営」にあります。英語でのコミュニケーションを恐れない雰囲気をつくるためには、児童のことをよく理解している学級担任は、欠かせない存在なのです。

各活動の最初のコールや、振り返りの時間は学級担任が行うなど、少しずつ担任主体の授業になるようにシフトしていきましょう。また、活動の見本を、学級担任がALT等と協力してやってみせることで、チーム・ティーチングの効果も上がります。

### Q4 学校としては、 どのような研修や準備を 行うのがいいでしょうか？

### A4 研究授業などを通して、 全員で試行錯誤を重ねながら 授業研究を繰り返していきましょう。

学級担任がALT等と効果的なチーム・ティーチングの指導を行うためには、学校全体で体制を整える必要があります。

例えば、年間3回の研究授業を設定し、学年ごとに準備をする体制にすれば、教員全員が教材研究への意欲をもつようになります。全員で試行錯誤を重ねながら授業研究を繰り返す中で、新たな発想が生まれることも期待できます。そんな校内研究をぜひ3年間続けてみてください。

できれば、アドバイザーの役割が果たせる日本人指導員(JTE)を自治体で採用し、学級担任のメンター的な存在としていつでも相談ができる環境がつけるといいですね。

それでは、実際に学校の事例を見てみましょう



は安心した様子でゲームを楽しみはじめた。

「OK。みんな、筆記用具を出して」。ゲーム後、外山先生はプリントを配ると、黒板の前でエディ先生の横に並んだ。ここからは、「夢の宿題をみんなで作ろう」と題した活動で、宿題がいちばん必要だと思う教科とその理由を各自で考える。そして、意見を述べ合った後、クラス全体で1週間の宿題計画を作るというものだ。少し複雑な指示は外山先生が日本語で行うが、「OK, next.」「Good job.」といった簡単な声かけや、発話モデルはエディ先生が示す。まさにあうんの呼吸で授業が進み、あっという間に45分が終わった。

### 担任はALTの授業をマネジメントする存在

「中盤、指示が複雑になってきたところから私が主導権を握りました。子どもとエディと一緒に見える位置に立って、子どもたちの理解が追いつけないと思ったら、ここだ、というところに入り、日本語でフォローする。毎回だいたい同じくらいのタイミングですね」(外山先生)。事前準備について聞くと、通常は放課後にエディ先生と打ち合わせの時間を設けるが、今回は十分な時間が取れず、直前にエディ先生に授業の流れを書いた紙を見せて確認してもらった程度だという。



子どもたちに発話モデルを示す、エディ先生と外山先生。



授業中はできるだけ多くの友達と会話をさせる。

「年度当初と比べ、ALTの指導力が育ってきて、細かく話をしなくても授業がうまく進むようになりました。子どもたちものってきて、楽しそうに活動しています。自分は決して英語が得意ではないですが、そんなエディや子どもたちの様子を見て、少しずつ不安が払拭されてきました」。

実はこの授業、「外国語活動」ではなく、町教育委員会が独自に行う「英語コミュニケーション」の授業だ。七ヶ浜町内の三つの小学校が文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、1・2年生は20時間、3・4年生は35時間、5・6年生は「外国語活動」の35時間(平成30年度からは50時間)を「英語コミュニケーション」の授業に充てている。これに伴い、ALTも増員。ALTをT1、クラス担任の日本人教師をT2と位置づけ、「T2はT1の授業をマネジメントする役割。町の教師全員でALTを育てる」というのが七ヶ浜流だ。

「ALTは教育を専門に学んでいない場合が多く、指導力に差があるうえ、契約も短期間であることから、年度による差も出てしまいます。それを一定レベルに引き上げたいのです。ALTを新任の教師だと思って、各学校で育てながら授業を行うように意識してもらっています」と、亦楽小学校校長の須藤清先生は言う。

### 町長からクラス担任まで 一体となって取り組む

七ヶ浜町は仙台市街から車でおよそ30分、宮城県中部の太平洋沿岸に位置する風光明媚な町だ。東日本大震災で甚大な被害を受けており、津波により町の面積の約3分の1が浸水した。人口はなだらかに減少を続け、少子高齢化が進む。亦楽小学校の児童数をみても、この15年ほどで2分の1にまで減っている。そんな中、現・寺澤薫町長が、マニフェストにグローバル人材の育成を掲げた。

「震災からの復興を考えたときに、町では子どもに目を向けました。町の未来を子どもの成長に託したのです」(須藤校長)。グローバル人材づくりには英語コミュニケーション能力は必須と考えた町長が発案し、武田光彦教育長率いる教育委員会が企画・立案し、町内五つの小・中学校で具現化したのが「七ヶ浜グローバルPROJECT」だ。須藤校長も推進メンバーとして一翼を担う。そのプロジェクトの主要事業として、教育委員会を中心に町内の小学校3校と中学校2校が同じコンセプト「英語コミュニケーション」の授業を実践している。各校の推進委員の先生を中心に、頻繁な情報交換や授業参観が行われており、共に学び合う緊密な連携体制ができている。そして平成29年度から平成38年度まで、10年間の長期計画であることも特徴的だ。成果を急がない、教育委員会の決定は、現場の先生に大きな安心感を与えた。

### 「百聞は一見に如かず」 教師全員が先行例を視察

七ヶ浜町の「英語コミュニケーション」には、モデルとなっている先行例がある。岩手県金ヶ崎町立金ヶ崎小学校の英語の授業だ。プロジェ

### 亦楽小の授業づくりの ポイント



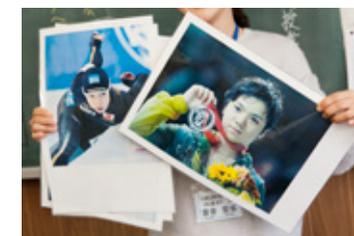
放課後、ALTと打ち合わせを行い、どんなアクティビティを入れるか、ポイントになるところを明確にする。



高学年では「インフォメーション・ギャップ」をつくるように意識。伝えたい、話したいという思いを刺激する。



低学年では、失敗を恐れずとにかく話すことを意識させる。クラス担任は、子どもたちにしっかりと寄り添う。



季節のイベントや時事ニュースもふんだんに取り入れる。おもしろいネタは、教師どうしてまねし合うことも。



クト企画段階の視察で、これが町の目ざす授業だと確信した武田教育長は思い切った決断をする。「百聞は一見に如かず。これを七ヶ浜の先生たちに見てもらおう」と100キロ以上離れた岩手県金ケ崎町まで、小中学校の全教員を視察研修に派遣したのだ。「今振り返るとこれ自体がいわばアクティブ・ラーニングですね。教師全員が方向性を共有したことで、“やらされ感”がなくなったのだと思います」と須藤校長は言う。

町役場担当職員も交え総勢130人による視察ツアーは、5回に分けて行われた。参加した先生が記した感想を見ると、ジェスチャーや絵を活用する効果、かけ声、安心して学べる学級づくりの重要性、テンポのいい発声練習や活動の

組み立て方への関心などとともに、それらを具体的にどう授業に生かしたいかというコメントが並ぶ。外山先生も視察を振り返り、「優秀なALTの姿も印象的でしたが、何よりも子どもたちの姿が目をはきました。楽しそうによく動いていて、英語への関わり方も素晴らしかった。あの視察で受けたインパクトは大きく、今もあの当時の授業がイメージとして頭に残っていて、日々の授業のモデルになっています」と話す。

### いつでも、誰に対しても授業をオープンにする

視察研修後には、各校で模擬授業と授業見学を繰り返した。さらに各校とも、「自由に見学に来てください」と、保護者、地域住民にも授業を公開しているという。これには抵抗をもつ先生



「明るく、楽しく、おもしろく」が七ヶ浜町の目ざす姿。

も多いのではないかと、外山先生に尋ねると、「教員は教室を開いたほうが変われるので、意識して見られるようにしています」と事もなげに言う。

結果、亦楽小学校では、先生方が互いの授業を見学し合い、互いにまねをし合ったり、疑問や悩みを解決し合うことは日常として定着している。同校の英語コミュニケーション推進委員を務める<sup>とうしやさとみ</sup>當舎聖美先生によると、うまくいった活動の共有以上に失敗例の共有機会が多く、子どもにとって有益でないと判断した活動は、やめる決断を下すことも多いそうだ。

「校長からも教育長からも、カリキュラムは仮のものだから、現場優先でどんどん変えていいと言われます。一緒になってやっていこうと思えるのは、主体的に進められる裁量の大きさがあるからに他なりません」。

### 英語嫌いをなくすことが最大の目標

そんな中で、先生たちに唯一求められる視点がある。それは、「明るく、楽しく、おもしろく」ということだ。先生どうして授業見学を行ううえでも、必ず「明るく楽しくおもしろい授業だったか？」という問いを投げかけ合う。このような授業を行うことは、「七ヶ浜グローバルPROJECT」の目標である「英語嫌いを出不い」を達成するために大切なことだからだ。

果たして今、1年間の学習を終えた子どもたちに「『英語コミュニケーション』の授業は楽しいか」というアンケートを取ったところ、「楽しい」の回答が91%にのぼった。

「残りの9%、『楽しくない』と答えた児童に理由を聞いてみると『私は英語を書きたい』とか『いつものALTだけでなく、違うネイティブと話がしたい』というものでした。中学校での学習につながるいい形ができてきていると感じます」と、當舎先生は言う。また、「授業を見た親御さんたちからも『私もこういう入り口から英語に触れていたら、英語が嫌いにならなかったのに』という声をよく聞きます」と話す。「中学の先生方にお話を聞くと、書くところでつまずいて苦手意識をもってしまう生徒が多いといいます。そのときに、英語そのものを嫌いにならないためには、小学校のうちに『つたない英語であっても、伝えたい気持ちが大きければ伝わるんだ!』という経験をしておくことが大事だと感じます」。

「英語のハードルを下げ、英語嫌いをなくす」。教育行政のトップから各クラス担任まで、皆が同じ目標を見据え、思いを一つに取り組む様子に、教育の原点を見る思いがした。

「英語に限りませんが、やらされている感、やらなければいけない感が先行するとうまくいけなくなります。英語が苦手でも、できないなりに何ができるかを考えることで、必ず得られるものがある。私の場合、まず私自身が英語に関心をもてたことが最大の成果です(笑)。まずは先生自身が英語を楽しむこと。それが子どもたちに伝われば、一つの成果ではないでしょうか(外山先生)。



特集  
どうやって  
授業をつくる?

## 授業の流れ



### 1. How are you タイム

“How are you?” “I’m ○○”という会話の練習。子どもたちは教室を自由に歩きまわり、ランダムにペアを作りながら、合計5人とその日の調子を尋ね合う練習をする。



### 2. ミッシングゲーム

はじめに、曜日と教科を表すピクチャーカードを黒板に掲示する。子どもたちが机に伏せている間、黒板からカードを1枚外し、何がなくなったかを答えるゲーム。



### 3. 自分の意見を言う練習

「宿題がいちばん必要だと思う教科は？」という問いに、それぞれが答える。“I study P.E. because 大人になってから体が鈍るから(理由は日本語使用).”の要領で発表。



### 4. ペアワーク

教室を自由に歩きまわり、ランダムにペアを作りながら意見を言い合う。1コマの授業の中で、歩く・座る・立つなどを繰り返すことで子どもたちを飽かさせない。



### 5. 時間割をつくる活動

子どもたちが選んだ教科のピクチャーカードを担当がピックアップする。人数の多かった教科から順に並べ、日曜日から土曜日までの「夢の宿題」を完成させる。



### 6. 振り返り

4項目(いろいろな友達に考えや気持ちを伝えた・積極的に英語を使って友達とかかわった・いろいろな友達の考えや気持ちを聞いた・英語に慣れた)のチャートで自己採点。



事例2 東京都目黒区立

## 不動小学校

教師自らが学習モデルとなり、子どもの「相手意識」を育む

### ビンゴゲームで前回の学習を復習 楽しみながら学習項目を定着させる

“What do you want to be?”

“I want to be a baker.”

「あ、ビンゴ!」。教室のあちこちから、歓声や笑い声が響いてくる。

ここ不動小学校は、平成28・29年度と目黒区の教育開発指定校に選ばれ、「外国語活動を通じてコミュニケーションを楽しめる児童の育成」を目標に掲げて教育活動を推進している。

この日、訪れたのは6年生のクラス。担任の平林幸先生がメインとなり、ALTのMathew Ensign先生がアシスタント的な役割を務める。前回の授業で習ったフレーズの復習として、ビンゴゲームの真っ最中だ。

子どもたちは4人のグループに分かれて机を寄せ合う。3人の前にはそれぞれ、職業の絵が書いてあるカードが縦3枚、横3枚、合計9枚ずつ並べられている。それをビンゴに見立て、

3人で“What do you want to be?”と聞くと、残りの一人が手持ちの絵カードを引いて、“I want to be a doctor.”などと答える。3人は、その職業カードがあれば裏返し、縦横斜めのいずれか3枚がそろったところで「ビンゴ」となる。

高学年ともなると、こうしたゲームには消極的ではないかという懸念も何のその、元気なかけ声が飛び交い、皆とても楽しそうだ。何より、復習したいフレーズを何度も繰り返すことになるので、自然と英語が定着していくのがわかる。

### 授業力と英語力の向上を目指して 教員どうし、学び合いの機会を設ける

小学校で英語が教科化されると聞いたとき、平林先生が真っ先に感じたのは「不安」だ。



ゲームをしながら、前回の授業内容を復習。「ビンゴ」になって、思わずガッツポーズ!

「私は英語が苦手でしたし、好きではありませんでした。これまでは、モデルカリキュラムをもとに授業を進め、ALTに任せる部分も多かったのです。でも、教科になることで、子どもたちにどう教えればいいのかと頭を抱えたのと同時に、自分は変わらなくてはいけないのだろうか」と不安に思いました」。

その思いは、平林先生だけではなかったはずだ。学校が目黒区の教育開発指定校になったのを機に、校内で授業研修部、環境整備部、資料研究部が発足し、外国語活動を支える基盤が徐々に整っていった。教員の研修は「授業力の向上」と「英語力の向上」の2本柱で実施。各学年が1本ずつ研究授業を行い、授業力向上を目指すのと同時に、月に2回、英語の研修会を開催し、英語力の向上を図る。

「授業研修部の教員が持ち回りでテーマを決め、市販のDVD教材を活用しながら、クラスルーム・イングリッシュのトレーニングなどを行っています。とても和気あいあいとした雰囲気ですよ」と話すのは、東京都英語教育推進リーダーも務める飯田一平先生だ。研修会のほか、ALTとのフリートークで英語力を磨く「イングリッシュ・カフェ」など、教員たちの英語への抵抗感をなくそうという活動も盛んだ。

「外国語の教科化が打ち出されたときは、現場がとまどうことは少なからずありましたが、最近では、児童の実態に合わせて、教員が自分なりに授業を組み立てられるようになってきたと感じています」(飯田先生)。

### 声の大きさと理解度合いがわかる 普段の様子を知っている担任の強み

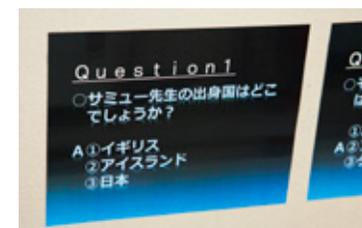
では、平林先生はどのように授業を組み立てているのだろう。

### 校内には英語がいっぱい!

子どもたちが普段の学校生活でも英語に触れられるよう、校内には英語があふれている。環境整備部の先生方が中心となって行っている活動だ。



学年に合わせて先生方がオリジナル教材を作成している。



ALTを身近に感じてもらうと、先生にまつわるクイズも。



階段は貴重な掲示スペース。月曜日は海生き物などの英単語が目に入る。

「まず最終ゴールを決めてから、キーセンテンスを考えます。そして、その文章を入れるためにはどんな順序で教えるべきか、どんなアクティビティが必要かを考えます」。

今回は「自分の将来の夢をスピーチで発表する」ことをゴールに見据え、8回の授業で完結させる予定だという。取材で訪れたのは3回目の授業だ――。



デモンストレーションを行う平林先生とマシュー先生。

ビンゴゲームで復習した後、いよいよ今日のフレーズ“I am good at ~”を学習する。まずは文部科学省作成の教材『We Can! ②』を使い、マシュー先生が3人の登場人物の会話を読

み上げる。そこから、3人の将来の夢とその理由を書き出していくのだ。勤のいい児童は、ここで“good at”が得意なことを表すことに気づく。平林先生が今日のゴールについて解説した後、そのフレーズを使ったデモンストレーションをマシュー先生と行った。

「ALTとのデモンストレーションは必ず取り入れています。まず音を聞いてほしいと思うからです。音が入らないと、子どもたちは発話できません。たまに、英語をリピートさせても声が小さいことがあるのですが、それは恥ずかしいからではなく、自信がないから。声の音量で子どもたちの理解度がわかるのです」(平林先生)。

それは、普段の子どもたちの様子を知ってい

る担任ならではのチェック機能といえそうだ。「英語が得意ではない」と話す平林先生だが、クラスルーム・イングリッシュを使いこなし、スムーズに授業を進めているように見える。

「事前の準備はしっかり行います。子どもたちに英語を少しでもおもしろいと思ってもらいたいので、心がけているのは、いろいろなアクティビティを取り入れて、バラエティ豊かな活動を展開すること。自分自身の英語力については、まだまだ勉強中です」。

授業の組み立てについて、ALTと密にコミュニケーションを取るが、言いたいことが英語で言えないもどかしさを感じることもある。でも、それこそが、子どもたちが感じている気持ちなのかもしれない。飯田先生はこう話す。

「英語が苦手な先生は、『よい学習者モデル』になれるという利点があると思います。子どもの目線に立ち、ときにはALTに“Slowly please.” “Pardon?”と聞いて、子どもたちも質問しやすい環境をつくることも大切です。先生の中には、発音や文法の間違いを気にして話すことをためらう方もいらっしゃいますが、小学校の外国語活動は「伝える」ことが肝要。子どもたちが相手の気持ちを考え、どうやったら相手に伝わるのか、『相手意識』をもつことが、英語に限らず小学校教育の要なのです。だから、先生の英語が完璧である必要はありません」。

子どもたちと一緒に勉強していこうという先生の姿は、実際に、子どもたちにもいい影響を与えている。飯田先生も大きな手ごたえを感じているようだ。

## 外国語活動を通じて学んでほしい豊かなコミュニケーション

さて、授業は最後のアクティビティに入った。マシュー先生が“I am good at painting.”と言ったら、「artist」の絵カードを掲げるという活動だ。“I am good at arranging flower.” “Florist!” 少し難しい単語が出てきても、前後に出てくる既知の単語から推測する子どもたちの様子が頼もしい。この後、今日のフレーズを全員で発音練習し、各自が授業の振り返りを行った。

“good at”の“at”の発音が難しかった。“good at”のdとaが続いているので、発音しにくかった”など、音に着目した意見が多く挙げられた。平林先生が日頃、耳で聞くことを重視しているのが奏功したのかもしれない。

「音を大切にすることというのは、相手の話を聞くことにもつながってくるものだと思います。英語力をつけることも大事ですが、外国語活動を通じて、コミュニケーションの取り方、相手意識の大切さを学んでほしいと願っています」。平林先生はそう話す。

6年生の中では、「中学校で英語を勉強するのが楽しみ」と口にする子どもたちが増えているようだ。それは、先生たちにとって何よりうれしい言葉に違いない。



これまでの学習の記録が収められているENGLISHファイル。

## 授業の流れ



### 1. 挨拶

クラス全員で“Please come in.”とALTを迎え、今日の天気や日にち、曜日などを確認。子どもたちは、英語の授業だからと構えることなく、自然体だったのが印象的。



### 2. 前回の復習

前回の授業で習ったフレーズを確認し、ALTの後に続けて、全員で声に出して言う。その後、ビンゴゲームで、さらに定着させる。教室内は歓声や笑い声に包まれた。



### 3. 今日のフレーズの導入

テキストに登場する3人の人物の会話をALTが読み、それぞれの「将来の夢」と「その理由」を聞き取って、表を完成させる。今日のフレーズは“I am good at ~”だ。



### 4. ゲームで練習

ALTが“I am good at ~”と得意なことを話したら、子どもたちは将来になりたい職業を当てる。分かったら絵カードを持って挙手。子どもたちの競争心も刺激される。



### 5. 発音練習

ALTのお手本の後、全員でリピート。前回、今回と習ったフレーズを使って、たくさんの文章を声に出す。難しい単語が出てきた場合は、平林先生が日本語でフォロー。



### 6. 振り返り

「英語振り返りカード」に、今日の授業でわかったこと、よかったことなどをまとめる。どの子どもも真剣な表情。音声に関する感想や気づきがあったようだ。



こう使う！

# COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE ③

ストーリー性に優れていると好評をいただいている  
中学校の英語教科書『COLUMBUS 21』。

現場では、どう評価され、どのように使われているのでしょうか。  
実際に使用している学校取材し、先生のインタビュー(前半)と  
授業レポート(後半)の2部構成でご紹介します。



## 熊谷市立熊谷東中学校



埼玉県熊谷市の東部に位置する公立中学校。昭和22年に桜田中学校として設置認可・創設し71年目を迎える伝統校であり、ラグビー日本代表選手を輩出するなど、文武両道の学校としても知られる。平成25年度から英語科の授業に「5ラウンドシステム」を取り入れ、今年が6年目の実践となる。

## 内田 陽先生

熊谷市立熊谷東中学校 英語科教諭

大学では英米文学を専攻。平成23年度より埼玉県公立中学校教員として勤務を始め、平成28年度から現職。男子バスケットボール部の顧問も務めており、英語に加え部活動でも熱のこもった指導をしている。

## 1年で教科書を5回学ぶ

本校の英語の授業は、「5ラウンドシステム」で行われています。これは、通常の授業のように、教科書をUnit 1から順に1年かけて取り扱うのではなく、**1年のうちに教科書を4~5回繰り返して学習する**というものです。リスニング、音読など、一つの学習スタイルに絞って、2か月ほどで全ユニットを学んだ後、再びUnit 1に戻り、次の学習スタイルで最後まで。これを5ラウンド行います。

### [1年生の場合]

※2・3年生はラウンド2を省く。(p16下段参照)

#### ラウンド1 リスニングによる内容理解

目標:概要理解ができる。

#### ラウンド2 音と文字の一致

目標:音と文字の一致ができる。

#### ラウンド3 音読

目標:音読ができる。

#### ラウンド4 穴あき音読

目標:文構造をマスターし、自己表現につなげることができる。

#### ラウンド5 リテリング

目標:ピクチャーカードを使い、教科書の内容を自分の言葉で語ることができる。

ストーリー性に優れた『COLUMBUS 21』は、**5ラウンドシステムと非常に親和性が高く、繰り返す効果が出やすい**といわれています。1年から3年までストーリーが繋がっているの

で、エピソードをフックにして学習内容を思い出させることができ、1学年の中、いわば横方向だけでなく、学年を越えて縦方向にも戻り、繰り返すことができます。

## 身近な話題と教科書的话题をリンク

『COLUMBUS 21』のもう一つの特徴として、その内容が、同世代の登場人物による身近なテーマであることが挙げられます。これにより生徒たちが感情移入しやすく、活発な発話につながられます。本校は授業の冒頭、帯活動として、いわゆるSmall Talkとよばれるもの(熊谷市では「かまいタイム(※1)」という名称)を中心に、生徒と英語でやり取りをする活動を行っています。**生徒の身近な話題と教科書的话题をリンクさせることができるので、英語を話すハードルが下げられ、なおかつ自然な流れでその日のラウンドの活動にもつなげていけるなど、非常にうまく機能しています。**

※1 教師が英語で生徒たちを「かまう」時間。授業をよりアクティブにすることをねらいとしている。

## 生徒の活動量が飛躍的に向上

本校では、1年次に良質な英語を大量にインプットし、2年次から徐々にアウトプット量を増やしていき、3年次には与えられたテーマについて自分の言葉で語るができるようになるというグランドデザインを描き、授業を進めています。そのため、1・2年生では体系的な文法指導は行わず、**活動の中で出てきた文法項目をピックアップしたり、生徒の内側から出てきた疑問をフォローしたり**することで、文法理解を促しています。そうした「気づき」を得るためにも、その場で考えて話す、即興性のある会話をする経験が必要だと思えます。

そこで、私が担当する2年生では、帯活動を充実させ(p16~17参照)、テンポのよい授業を心がけています。帯活動の多くはペアやグループで行うものなので、仲間と協力することで英語を話すことへの抵抗も軽減され、英語が苦手な生徒の力の底上げをはかることもできます。また、教室の後ろに、自由に持ち帰って挑戦できる文法演習プリント「内田スペシャル」(通称、内スぺ)を設置して、個別に、必要に応じて挑戦できるような学習環境もつくっています。

結果として、自分の考えや聞き取った内容を積極的に伝えようとする生徒も増え、5分間のライティングで使う語数は、平均60語、多い生徒では100語を超えることもありました。

これはひとえに、5ラウンドシステムがうまく機能し、**英語を使う時間が圧倒的に増えたこと**によるものだと思います。何より、生徒の誰もが楽しそうに授業に参加している。教師としてこれほど嬉しいことはありません。



『COLUMBUS 21』2 p4

登場人物のほか、これまでのあらすじも紹介。ストーリー性を大切にしている。

内田先生の授業は次のページでご紹介!

こう使う!  
**COLUMBUS 21**  
ENGLISH COURSE

# 内田先生の授業を レポート!

**2年4組** (生徒数:36名)

学習内容: Unit 6 リテリング(ラウンド4)

本時の目標: Unit 6の内容を自分の言葉で説明



英語教室に、前の授業を終えた生徒たちが続々と集まってくる。教室には英語の歌が流れていて、始業を待つ間に自然と英語モードに切り替わるよう環境づくりがされている。チャイムとともに、内田先生が“OK, let's try.”と発声。生徒たちは一斉にプリントに目を落とした。

**[帯活動1 LSD]**  
**最後の文を書き取るディクテーション**

最初に挑戦するのは、「LSD(Last Sentence Dictation)」の活動。ディクテーションの一つで、聞こえてくる連続した文章のうち最後の一文を書き取るというもの。この日は、1年生の教科書のUnit 10の音声を用いたLSDで、解答は“He can't come today.”。答え合わせの後、内

田先生が「can't……こういう感じのもの、いっぱいありますよね? For example……」と投げかけると、“Must!” “Could!”と声上がる。続けて先生が“OK, we call this 助動詞。Can you pick up more than 5助動詞?”と促すと、生徒たちは“May!” “Will!”などと、競うように例を挙げはじめた。ここで内田先生は、助動詞の一覧が示された副教材のページを示して、生徒たちに助動詞の表現の幅を確認し、次の活動に進んだ。

**[帯活動2 4 Corners]**  
**グループで助け合い文章を完成させる**

4 Cornersとは、一つの文章を四つに分割して教室の四隅に貼り、四人組になった生徒が分

担してそれを読みに行き、理解したことを共有することで、文章全体を再現するという活動だ。“Let's try 4 Corners. Move your desk.”の声を聞くや、四人組のグループをつかった生徒たち。6分の制限時間が告げられると、生徒どうして役割分担し、それぞれ教室の四隅へと移動しはじめた。教室には再び洋楽が流され、リラックスした雰囲気がつくれる。6分後、答え合わせの後に全員で全文を音読し、机を戻すと、いよいよ本時の内容、教科書Unit 6に入った。

**[Story Telling]**  
**本文内容を自分の言葉で説明する**

前述のとおり、授業は、教科書の全ユニットを1年間で4~5回繰り返して学ぶ「ラウンドシステム」で行われる。2年生のラウンド4では、ピクチャーカードを使って、本文の内容を自分の言葉で伝えるStory Tellingの活動を行う。

内田先生は、Part1~3まで、教科書全文を各自で音読させた後、ピクチャーカードを配付。表現を復習するために教科書を見てもよい時間を30秒だけ与えると、教科書を閉じさせた。

ここから、隣に座る人どうしのペア、前後に座る人どうしのペア、斜めに座る人どうしのペアと、次々とペアを変えながら、じゃんけんをしては、勝者が相手に30秒間でストーリーを話す、というのを繰り返していくのだが、これ



ペアになってStory Tellingを行う。Unit 6のピクチャーカードを使いながら教科書の内容を自分の言葉で伝える。

は、通称「修行」の時間だ。

実は隣どうしに座っていた「基本のペア」は「師弟関係」で結ばれている。年度の初めに、生徒全員に「クラスメートの誰に英語を教わりたいか」というアンケートをとり、その結果と成績、仲のよさを考慮して、内田先生が師匠と弟子のペアを作る。これにより、生徒どうし教え合い、学び合うという形が自然にできるだけでなく、評価やアドバイスをしやすい雰囲気ができるという。

**[Story Writing]**  
**話した内容を文字にする**

続いて内田先生がStory Telling Sheetと書かれたプリントを配付。その上部には、教科書本文から抜き出されたキーワードが9~10語示されており、その語を使いながら、自分の話した内容を英文に書く。教科書は見ないが、生徒たちは、繰り返し口にした文章とあって、さらさらと鉛筆を走らせる。

その後、再びペアを変えながらStory Tellingの活動を行ったが、一度文字にして書いたことで整理されたのか、どの生徒も、書く前以上に、よどみなく話せるようになっていた。

活動が盛りだくさんで、まさに休む暇もなく話し続けた50分。生徒たちは充実感にあふれた表情で英語教室を後にしていった。

●Unit 6 A Therapy Dog

本文の内容: ニックとティナの姉弟がセラピードッグの訓練を受けている子犬のラスティを訪ねる場面。身近な動物である犬と人間とのかかわりや、盲導犬や介助犬の役割について理解する。  
なお、Unit 2のストーリーで、ニックが捨てられていた子犬を助けて施設にあずけるという伏線が張られている。

ラウンド	内容
1	リスニングによる内容理解: 教科書の音声を繰り返し聞く
2	音読: さまざまな手法で音読練習を繰り返す
3	穴あき音読: 本文の語を空欄にしたワークシートを用い、穴埋めしながら音読する
4	リテリング(Story Telling): ピクチャーカードを使いながら教科書の内容を自分の言葉で伝える ★
5	3年生のラウンド1(リスニングによる内容理解)の先取り学習

今日の  
授業はココ!



4 Cornersに取り組む生徒たち。自分が担当しているCornerの文章を読みに行く。

\*1年生ではラウンド2で音と文字の一致を行うが、2・3年生では行わず、その分、授業冒頭の帯活動とライティング活動の時間を長くしている。

…………… 第3回

# 小中をつなぐ ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では6回に分け、小学校と中学校の学びをどうつないだらよいか、そのヒントを述べていきたいと思います。今回は、新しい補助教材『We Can!』を使ったつなぎ方について、ご紹介します。

## 小中連携のポイント

### ①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ②

**POINT 1** 『We Can!』の指導書の目次を見る  
(学んできたことを知るいちばん手短な方法)

**POINT 2** Small Talkで生かす—3ステップでやってみる  
(英語でのやりとりを気軽に行う第一歩)

## 太田 洋

おおた・ひろし  
東京家政大学教授  
東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。東京都の中学校、東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、駒沢女子大学教授を経て現職。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

今回は、「①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」の例として、『Hi, friends!』と中学校教科書を使いました。第3回目の今回は、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」の予定でしたが、小学校の新しい補助教材『We Can!』を中学校の先生方にも知ってもらい、活用することが大切だと思いますので、内容を変更して、『We Can!』を題材に「What to learn」についてもう一度考えていきます。

### 1. 『We Can!』の指導書の目次を見ましょう

「この言い方、小学校でやったよね」——これは先日私が参観した中1の授業での一場面です。ある活動のモデルの中に、“I want to ~”の文が入っていました。その際に、ある生徒が上の言葉を同じグループの友達に話したのです。授業の後、「want to ~をやったこと覚えていたの？」と尋ねたら、「そうなんです。“I want to go to ~”で、行きたい国について話しました」と答えてくれました。言葉は場面・文脈の中で繰り返し使うことで身についていくものです。もちろん、すべての生徒がこのように学んだことを思い出すわけではありませんが、小学校で触れてきたことを生かすのは小中連携のポイントの一つです。そのために中学校の先生は、子どもたちが小学校で何を学んだか(What to learn)を知ることが大切です。

では、具体的にどうしたらいいのでしょうか。私がお薦めする一つの方法は、まず『We Can!』の指導書の目次※1)を見ることです。どんな場面でどのような文、文法事項、語彙が使われているのかがわかります。これを中学校では、同じ活動を行うか、または違う場面で生かしながら繰り返し学ぶということが考えられます。

### 2. Small Talkで生かす—3ステップでやってみましょう

今回は、小学校で学んだことを、違う場面のSmall Talkで生かすことを考えましょう。例えば、『We Can! ①』の「Unit 6 I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域」の部分では、使われる文、語彙として、以下が挙げられています。Where do you want to go? / I want to go to (Italy). / Why? / I want to [see / go to / visit] (the Colosseum). / I want to eat (pizza). / I want to buy (olive oil). / It's [exciting / delicious / beautiful / great / fun].

ここで注目したいのは、構成の特徴です。“I want to ~”と答えた後に、It's [exciting / delicious / beautiful / great / fun] と感想、気持ちがが続いている点です。2文という最小単位ですが、まとまりのある構成になっています。このことを生かしてSmall Talkをしましょう。

一つの例として、3ステップで行う方法をご紹介します。

#### 1. まず自分が話す

\*場面設定は、夏休みに行きたい場所、したいこととします。

“Where do you want to go during the summer vacation?”とクラス全体に問いかける



※1 『We can! ①』指導書 目次

“I want to go to Okinawa during the summer vacation. I want to eat Okinawan soba noodles. They are delicious.”

#### 2. (教室にもう一人先生がいれば)

##### “How about you?”と尋ねる

\*相手の答えに反応する(Really? / Me, too. 相手の言ったことを繰り返す)

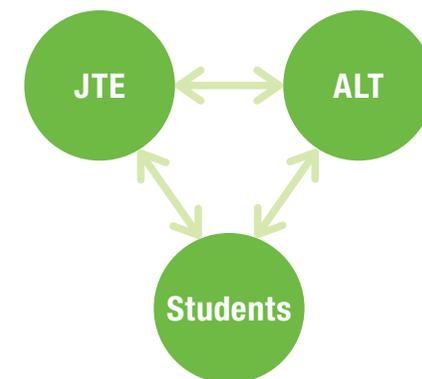
#### 3. 生徒にも尋ねる

尋ね方として、“Did you ~?” “What did you ~?”, 3択、クイズ形式など。生徒はYes/No, 1語で答える, 手を挙げさせるなど。

[オプション] 生徒は二人一組になり、お互いに尋ね合う

いかがですか。英語でのやりとりを気軽に行う第一歩として、3ステップで進める方法です。できるときに気軽に行うのがコツです。そしてその際に『We Can!』の目次を見て、話題、場面、文、文法、語彙を生かすという発想がポイントとなります。

ALTとTeam Teachingを行う際は、下の図(※2)のような三角形の関係を心がけましょう。



※2 JTE(日本人教師)—ALT—Studentsのインタラクションの三角形

次号では、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」について、詳しくご紹介します。

今日から使える!

# Classroom English

## Lesson 2

### 授業の始まりに 使える表現

4月から始まった外国語の授業は順調ですか。英語で元気に授業を始められていますか。

今回は、授業を始めるときに使える表現を紹介します。外国語活動の経験がある児童はもちろん、初めて英語に触れる児童にとっても楽しい時間となるように、授業のはじめのあいさつや号令を英語で言ってみましょう。そうすることで、児童も英語スイッチが入り、教室全体の英語モードが高まるでしょう。

紹介する表現は、5語程度のものが多いので、慣れるまでは、言いやすい表現を繰り返し使ってみましょう。児童も同じ表現を繰り返し聞くことができるので、定着がしやすくなります。慣れてきたら、少しずつ違った表現を取り入れることで、バリエーションを増やしていけるといいですね。英語で話すことに自信がないと、声が小さくなりがちですので、大きな声で、ゆっくり、はっきりと言い切るように心がけましょう。

### Let's start!

はじめましょう!

授業を始めることを伝える表現です。ALTに“OK!”と反応してもらうことで、児童も少しずつ、この表現を聞いたら、“OK!”と返せるようになるでしょう。「今日の授業」という意味の“today's class”や、「英語の授業」という意味の、“our English class”を付け足すこともできます。「スタート」という言葉は日本語にもありますが、「ター」と伸ばした後に、舌先を少し巻き上げるようにして、語尾の「ト(to)」まで言い切らないようにすると、より英語らしい音になります。

### Hello, everyone!

こんにちは、みなさん!

英語でのあいさつの基本といえばこれですね。「こんにちは」と訳していますが、時間を選ばずいつでも使える便利な表現です。“Hello.”の代わりに、少しでもだけた“Hi.”も使えます。everyoneはclassという表現に置き換えることもできますし、教師や児童の名前を入れて呼びかけることもできます。教師に対しては、名字にMr./Ms.を付けて、“Hello, Mr. Kimura.”のように、児童にはファーストネームで“Hello, Shun!”といった具合です。授業の時間帯に合わせて、“Good morning.”や“Good afternoon.”なども活用しましょう。

菅井幸子 すがい さちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国の教育委員会や学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

### How are you?

元気ですか?

おなじみの表現ですが、“I'm fine, thank you. And you?”と、自動的に応答している人も少ないのでは。機械的なやり取りとして定着させるのではなく、そのときの気分で応答が変わるものだとことを体感させたいものです。fineの代わりにgreatやgoodも使えます。“I'm sleepy.”のように、形容詞を続けて体調を表すこともできます。「まあまあ」という意味で“So-so.”を使っている人もいますが、まずまずな気分を表すときには、“I'm OK.”のほうが自然です。

### How's the weather today?

今日の天気はどうですか?

“It's sunny.”のように、“It's + 形容詞.”で答えませ。授業のはじめにいつもこの質問をすることで、児童の応答も徐々にスムーズになっていくでしょう。よく使う表現：sunny(晴れている)、cloudy(曇っている)、rainy(雨ふりの)、windy(風が強い)、hot(暑い)、cold(寒い)などに慣れてきたら、あまり聞き慣れない表現：chilly(肌寒い)、freezing(凍えるほど寒い)、humid(湿気が多い)、muggy(蒸し暑い)なども紹介できると、児童の知的好奇心をかきたてるでしょう。

### What day is it today?

今日は何曜日ですか?

天気の質問と同じように、曜日についても授業のはじめに聞くようにすると、自然な流れで曜日の言い方を覚えることができます。授業がある曜日だけ覚えることがないように、1週間の曜日の言い方も紹介できるといいでしょう。質問に答えるときには、“It's Monday.”のように答えますが、「月曜日に」と言いたいときは、onという前置詞を伴います。(例：I play soccer on Monday.)その日の日付をたずねる質問の“What's the date today?”と混同しないようにしましょう。

#### ★ここがポイント!!

今回は、How やWhatなどの疑問詞を使った質問、「WH疑問文」をいくつか紹介しました。英語での質問には、このほかに、“Are you hungry?”(おなかですいていますか。)のようにYes/Noでたずねるものもあります。どちらの疑問文も、文の最後にクエスチョン・マークがあるので、つつい語尾を上げたくなりませんが、WH疑問文のときは、イントネーションを下げると自然です。授業中に質問をするときにも、このルールを意識してみてくださいね。

# 小学校英語お悩み相談室

| 第3回 |

いよいよ移行期間となった、小学校での英語教育。初めてのことにとまどう先生も多いと思います。先生方のそのお悩みを、英語教育のスペシャリストである小泉 仁先生が受け止めます。



QUESTION.1

歌やチャンツ<sup>(※1)</sup>で  
高学年の子どものノリが悪いのですが、  
どうすればいいでしょうか。

## A 高学年なら自然なこと チャレンジ要素を入れよう

5, 6年生にもなると、意味や目的が分からないまま、英語を呪文のように唱えることに自然と抵抗を覚えるようになります。いわゆる思春期に入ってくるので、ノリが悪く見えるのは、自然なことかもしれません。低学年の子どもは先生のまねをして歌やチャンツに夢中で取り組みますが、高学年になると、物事を論理的にとらえる能力が発達し、「何を言っているのか知りたい」という気持ちが先行するようになります。

では、どうしたらノッてくれるか。そのためには、**歌やチャンツの中に、子どもたちがチャレンジしたくなるような要素を盛り込みたいですね。**決まりきった内容ではなく、自分の思いを英語で表現してみる場面を作ることが重要です。教材どおりではなく、少しレベルを上げてみてもいいかもしれません。

例えば、「We Can! ①」では、“What would

you like?”と食べたいものを問い、“I'd like ~.”と答えるチャンツを紹介しています。表現の型を練習するチャンツなのですが、子どもがほんとうに好きな食べものを、“I'd like beef steak, ramen, fried chicken and spaghetti!”のように、早口にいくつでも言ってよいことにしてはどうでしょう。既成の音源に合わせてもよし、学級担任のタンバリンでもよいので、リズムに乗ることを条件にして子どもに工夫させます。

また、歌の場合、子どもたちが本当に興味をもちそうな歌を選ぶ努力も必要でしょう。ときには洋楽のラブソングなどを聴かせてみる。「この歌詞はこういう意味なんだよ」と説明したときに、子どもたちは少し背伸びしたような気分になれるですね。

彼らが興味を引かれる歌の中に、さりげない学びがあればいいと思います。音楽の先生と協力するなどして、高学年の子どもが好む歌を探してみてください。英語の歌は楽しいと思えるように工夫したいですね。

※1 英語の単語や文をリズムに乗って発音すること。

小泉 仁 こいずみ まさし  
東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。  
日本児童英語教育学会 (JASTEC) 会長。  
一般財団法人語学教育研究所理事。  
中学校英語教科書  
『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の  
編集委員を務める。

どんなお悩みにも  
お答えします



QUESTION.2

自分の英語力に自信がないので、  
子どもの英語力を評価できる  
自信がありません。

## A 正確性だけではない 多様な「ものさし」持って

学習指導要領を見る限り、小学校英語では正確性をあまり重視していません。英語で話す際、発音やアクセントの正確さを求めるというレベルまでは要求されていないのです。とにかく、聞かれたことが理解できて、返事ができればそれでいい、というのが今の小学校英語で求められていることです。

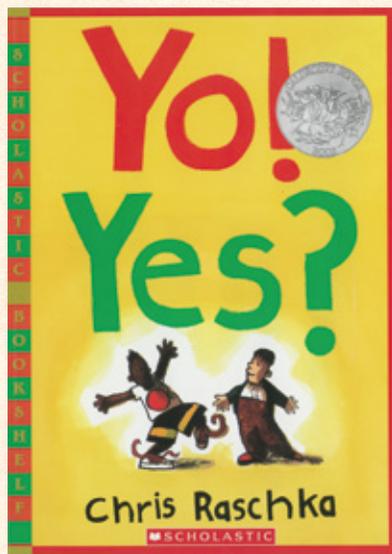
例えば、自己紹介の練習で、子どもが“I like dog.”と言ったり書いたりしたとします。書く活動であれば、適切な表現は“I like dogs.”ですが、伝えたい意味が理解できるなら、それは二重丸です。学習指導要領にある「語順を意識しながら書き移すこと」が認められれば、正確性はそこまで追求する必要はありません。なので、必ずしも先生の英語力がなければ評価できないということではないのです。

とはいえ、これまでの中学校英語では正確性をとても大事にしてきました。先生方にとっ

て、新たに教科化する小学校英語は、今まで経験してこなかった新しい評価をしなくてはいけないので、難しいところだと思います。

小学校英語における評価のものさしは、正確性という1本だけではありません。先生たちは、それぞれの課題やテストで、子どもたちの「何を」測りたいのか、多様な観点から考える必要があります。「今日は相手に思いが伝わったかどうかを確かめます」とか、「今日は先生が感激した発表にボーナス点をあげます」とか。特に小学校の段階では、**文法や綴りのミスで減点するのではなく、コミュニケーションを取ろうとする姿勢を見て、加点的な評価をすべきでしょう。**

子どもが自分の言いたいことが英語だけでは伝わらなくて、絵を描いて相手に説明したとします。それはコミュニケーションを続けようとする意志の表れですよ。小学校英語では、「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」ことが大切なので、それはプラスの評価の対象になるわけです。



**Yo! Yes?**

著者: Chris Raschka  
出版社: Scholastic

絵 本にもいろんな絵本があります。たとえば、大人には「?」としか思えないのに、子どもはゲラゲラ笑って、何度も繰り返し読む絵本。一方、大人でないと「!」というおもしろさや皮肉がわからない絵本。そして、大人も子どもも「!!」「!!」の絵本もあります。

たとえば、この絵本。

表紙を見てのとおり、黒人の男の子と白人の男の子が主人公……というか、この二人しか出てきません。中を開くと、左のページに元気そうな黒人の男の子、右のページにちょっと落ちこんでそうな白人の男の子、というふうにシンプルな構図です。そのうえ、左のページにも右のページにも、言葉は一つか二つ。

“Yo!” “Yes?”  
“Hey!” “Who?”  
“You!” “Me?”  
“Yes, you.” “Oh.”

こんな感じ。シンプルな単語がいくつか並んでいる

だけなのですが、二人の気持ちが伝わってきます。途中で、白人の男の子は、友だちがいなくてさびしがっていることがわかります。すると、黒人の男の子が……。

最後までほとんど単語と単語だけのやりとりですが、深い内容なのです。そのうえ、単語が少ないというのに、この絵本には“yes”が6回も出てきます。そして、その6回は、それぞれにニュアンスが違う。じつによくできています。

これにChris Raschkaの絵が加わると、最高です。

この絵本、いろんな遊びができます。たとえば、まず文字を隠して、絵だけ見せて内容を想像させる。それから、一言か、二言、日本語を書かせてみる。絵がとてもうまく二人の気持ちを表しているのだから、きっと内容をつかんでくれると思います。いや、もしかしたら、原作よりもおもしろいやりとりができあがるかもしれません。そのあとで、英語を見せて、意味を考える。ほかにもいろんなふう遊ぶはずですよ。

**金原瑞人** 岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど500点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

新装改訂

英語の授業が変わる

50の  
ポイント

太田洋 著



**Point 1**

ブロックは積み上がるといいけれど  
英語学習の正体は?

…ジェンガ!

皆さんは、ジェンゴというゲームを知っていますか? 積み上げたブロックを1つずつ抜き取って、上に積み上げていくゲームです。もちろん、どこかでブロックは崩れてしまいます。これが英語学習の「正体」ではないかと思えます。

多くの教師は、「今日は過去形の肯定文、次の時間は過去形の否定文」と、1つ1つ教えていけば、ブロックが積み上がるように英語もできるよになる」と思っているのではないしょうか。(昔の私はそう思っていました。)ところが、ブロックは思ったように積み上がっていきません。積み上げようとしている最中に、ジェンゴみたいに崩れていってしまうのです。

なぜ崩れてしまうのでしょうか? それは、新しい文法事項のみに焦点

が当たっている授業では、その文は言えるのですが、次の時間にはまた新しい文法事項に焦点を当てなければいけないので、学習したことを忘れてしまうからです。

「教えた=学んだ」ではありません。教えたつもりでも、教えただけで身につけてはいけません。

**2回目・3回目の出会いを**

そこで望むのは、**2回目・3回目の出会い**をいかに増やす授業設計をしましょう。1回目で出会った文法事項にまた触れたり使ったりする機会を作ることです。「今までに習った文法事項から誰かを使う機会」を作るのがポイントです。例えば、「今までに習った範囲の教科書のビジュアルカードを見て、その内容を言う(書く)」「教科書の登場人物を紹介する文を書く」「ALLに中学校時代のことを尋ねてみる」などはどうでしょうか。

生徒は、2回目・3回目の出会いをしながら、だんだん学んでいきます。その出会いを意識して作ってあげてください。

これで授業が変わる!

—— 授業改善のためのアイデアをビジュアルで紹介

- PART 1 言語習得につながる英語の授業
- PART 2 見直してみよう! 英語の授業
- PART 3 授業をどう展開するか① —— 文法指導を中心に
- PART 4 授業をどう展開するか② —— 教科書本文の扱いを中心に
- PART 5 より豊かな授業のために

定価: 本体1,900円+税 ISBN 978-4-89528-985-6 光村図書出版株式会社